

小貫 篤 加納 隆徳  
江口 勇治 齋藤 宙治 著

# 『中学生からの法と学校・社会』 法の視点で学校生活・社会生活をみる

## 「法」を用いる生き方を知る

「法学」という言葉にどのようなイメージを持っているだろうか。分厚い六法全書か、あるいは、弁護士や検事が活躍するドラマ・映画を思い浮かべる人もいるかもしれない。これについて、著者の一人である齋藤宙治氏は「法を学ぶ時に重要なのは、より良い社会を実現するためにみんなで法を創っているというイメージを持つこと」なのだと説く。

本書は、大学附属高校での指導経験がある小貫篤氏と加納隆徳氏の経験を踏まえて、高校生にとってリアルな日常を取り上げながら法の基本的な見方・考え方を解説していく。例えば、「オンライン文化祭で音楽は使えるの?」というチャプターでは、著作権と著作物の創造・利活用の在り方について論じる。

法は、社会の在り方や人々との関わり方を円滑にするための道具なのだと言われ、齋藤氏は強調する。社会を共に創るために、自分自身の問題として物事や問題を捉えて考えるきっかけとなる一冊に仕上がった。



清水書院  
本体1,000円＋税

『大學新聞』第26号(令和6年4月10日発行)掲載